

「岡大教職ナビ」では教職課程を履修しているすべての学生に役立つ情報を随時配信しています。ここでは配信した最新記事の一部を掲載しています。さらに詳しい情報や最新の情報はセンターホームページをごらんください。

教員・講師等募集情報

- 学校法人智辯学園常勤教諭
- 西南女学院中学校・高等学校常勤講師
- 平成25年度成田市推進教員等
- 株式会社キンダーナーサリー保育士
- 滋賀県公立学校講師
- 社会福祉法人鳥取上小児福祉協会天心寮保育士等
- 学校法人鎮西敬愛学園（数学科）専任教諭
- 社会福祉法人龍華福祉会児童養護施設福山ルンビニ園
- 社会福祉法人揖保福祉会保育士
- 社会福祉法人宮川福祉会保育士
- 学校法人花岡学園高等学校の常勤講師
- 社会福祉法人なかよし会保育士
- 社会福祉法人広島県同胞護国財団保育士
- 上尾市平成25年度臨時教員
- こどもの森グループ（認可保育園）保育士

スクールボランティア募集情報

- 学校支援ボランティア依頼内容一覧H24（2012.11.1）（岡山市教育委員会 生涯学習課）
- 教職実践インターンシップ（試行）（赤磐市教育委員会）
- 保健室ボランティア（岡山市立大元小学校）
- 放課後こども教室（赤磐市立山陽東小学校）
- 学習支援ボランティア（岡山県教育庁指導課）
- 「生きる力」支援事業ボランティア（倉敷市教育委員会）
- 保健室ボランティア（岡山市立西小中学校）
- 学校支援ボランティア（岡山市立福浜中学校）
- フレンドリーサポーター（兵庫県立但馬やまびこの郷）
- 学習支援ボランティア（和気町立佐伯中学校）
- 不登校支援ボランティアについて（岡山市教育委員会 指導課）
- 身体計測の補助（岡山大学教育学部附属小学校）
- 心れあい体験活動（総社市教育委員会）

教員採用試験受験記：平成25年度 兵庫県 高等学校 理科(生物) **合格**

自然科学博士前期理学系生物科学専攻 高野綾香さん

私は、兵庫県に猶予制度があることを知り、せっかくのチャンスを無駄にしたくないという思いから、教員採用試験を受けることに決めました。入学当時から教員志望で絶対に受かりたいという気持ちと絶対に受かってみせるという気持ちは強く持っていました。本格的に勉強を始めたのが4月頃であったため、とても焦りました。しかし、教職相談室の先生に小論を見ていただいたうちに自分の考えがまとまるのを感じ、自信をつけることができました。試験では、教職になりたいという気持ちをどれだけ伝えることができるかということが大切です。入室、退室時に大きな声で挨拶をし、面接官を驚かせるくらいの勢いがあると、何か違う！と感じてくれるかもしれません。教員採用試験は大変ですが、だからこそ、どうして自分が教職になりたいのかということをしつくり見つめ直すことができるのであり、試験に向けて費やした時間できっと何かを学ぶことができます。頑張ってください！

教員リレー・エッセイ「教員養成・教員研修から『教師教育』へ」

センター長 加賀勝 教授

知識基盤社会の本格的到来を背景として、学校教育では、子どもの学習意欲の低下・社会性の不足・いじめや不登校など生徒指導上の諸課題への対応、特別支援教育の充実、外国人児童生徒への対応、ICTの活用などをはじめとする課題が複雑化・多様化しています。学校では、このような変化や課題に対応できる高度な専門性と豊かな人間性・社会性を備えた力量ある教員が求められているといえます。一方で、教員の年齢構成に目を向けると、今後10年間に教員全体の約3分の1が退職する、いわゆる大量退職期を迎え、経験の浅い教員が大量に誕生することが予想されます。これまで、教員の資質能力の向上は、採用後に学校教育現場における実践の中で、先輩教員から新人教員へと知識・技能が伝承されることで担保される側面がありましたが、今後はその伝承が困難になること考えられます。



このようなことから、教員養成教育では、教育学や専門諸科学、発達諸科学に関する知識と技術を幅広く習得し、反省的・創造的に教育活動に取り組むための基盤となる実践的指導力をバランスよく身に付け、教育上の諸課題に素早く適切に対応できる教員を養成することが求められています。また、教職には高度専門職業人として、教職生活全体を通じて、社会の変化に応じた知識・技能の刷新などを学び続ける姿勢が求められます。子どもの学ぶ意欲を高めるためにも、教員自身が主体的・自発的学習者として、常に学び続ける存在であることが一層必要になります。学校教育では、一斉指導だけでなく個別化や創造的・協動的な学習活動を重視し、地域のカも活用した学びの転換と教育の質の向上が不可欠となっています。教員は、こうした教育に対応し得る資質能力や同僚とチームとして対応する力を身に付けることも必要といえます。

これまで教師教育を主体的に担ってきた教育委員会と、教員養成を担ってきた大学の垣根を越えて、教員養成から教員研修を一体としてとらえた「教師教育」が不可欠となっています。

**岡山市学校支援ボランティア**  
**学生シンポジウム**

日にち：平成25年2月16日（土）※時間は未定  
場所：岡山大学教育学部講義棟 5202教室

**ボランティア活動に関心のある方ならどなたでも大歓迎！**

**学校園でのボランティア活動経験が  
君の未来を変える**

★詳細は決まり次第センターホームページでお知らせします★

**岡山CST養成プログラム  
第三期生募集**

**応募期間：平成25年1月23日(水)～1月31日(木)**

自信をもって理科の指導ができる  
指導に困っている先生を支援できる  
地域の小・中学校の理科教育を推進する力がある

そんな人材を岡山県教育委員会と共同で養成します。  
CSTとは、中核的理数系教員（Core Science Teacher）を意味します。

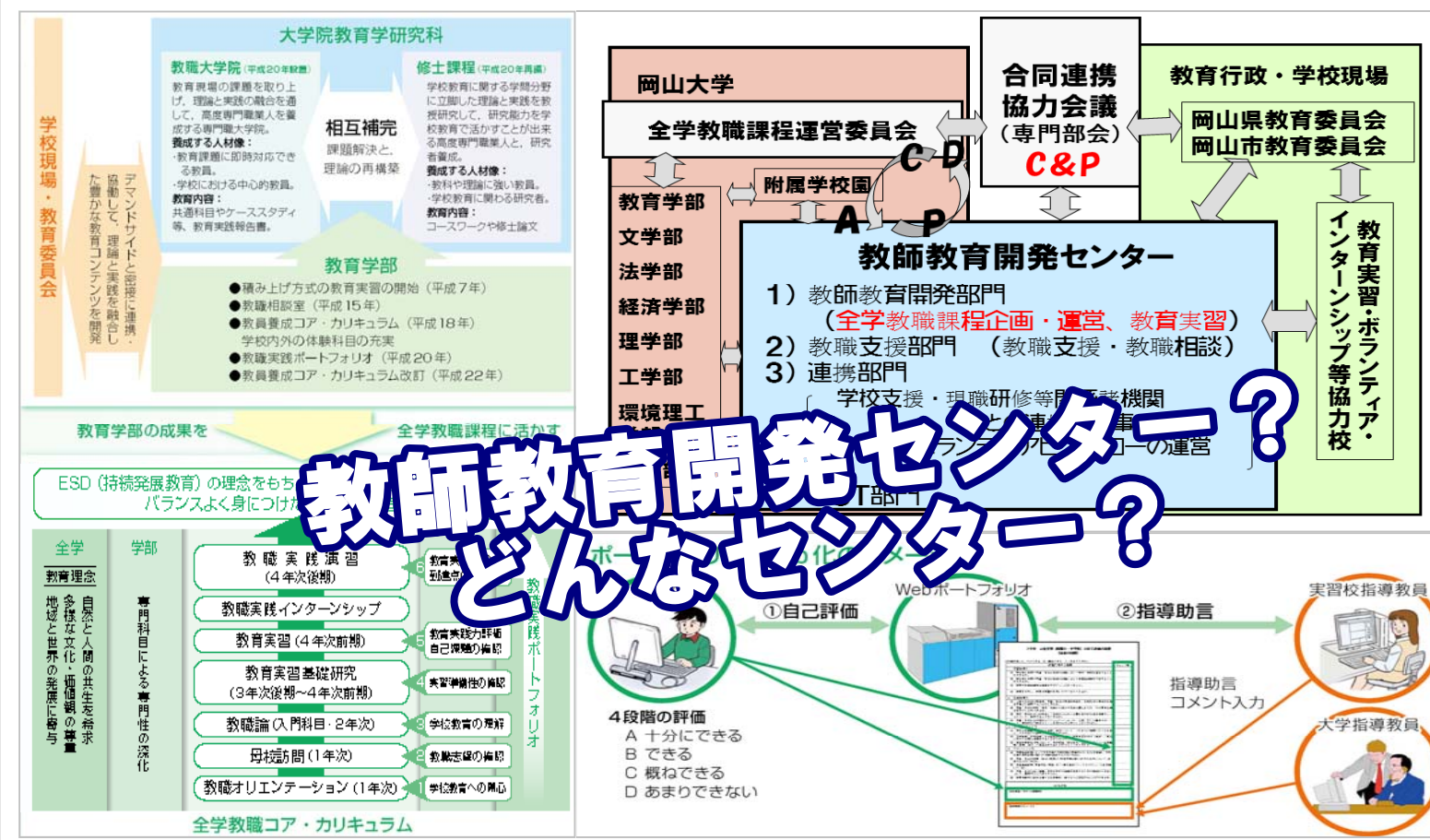
**平成25年1月中旬に第三期生募集説明会を開催します！**  
詳細は12月末に掲示するポスター等で確認してください。

岡山大学 教師教育開発センター ニュースレター

# CTED NewsLetter

Center for Teacher Education and Development, Okayama University

**創刊号**  
(2012年12月1日)



**今号の主な記事**

- 【特集】教師教育開発センター？どんなセンター？（センターのご紹介）
- 【特集】平成25年度必修化 全学教職実践演習の試行に取り組んでいます
- 【報告】平成24年度母校訪問実施報告
- 【報告】教師力養成講座（第3回・第4回）
- 【報告】学生と現職教員が集うCST養成講座
- 【報告】岡山県教育委員会・岡山市教育委員会との合同連携協力会議の開催
- 【連載】≪教員リレーエッセイ≫  
センター長 加賀勝 教授
- 【連載】教員採用試験のツボ「試験の内容と傾向をつかもう」
- 【連載】教員採用試験受験記：高野綾香さん（自然科学研究科）
- 【掲示板】「岡大教職ナビ」最新情報
- 【掲示板】センターからのお知らせ

岡山大学では教職をめざす学生の皆さんを支援するために、「教師教育開発センター」を平成22年4月に創設しました。国立の総合大学が学部の垣根を越えて教員養成に取り組むことは、全国的にも例が無く、高い評価を得ています。この取組は本学の教育学部が培ってきた先進的な教師教育の理論と実践を基にしています。センターは「教師教育開発部門」「教職支援部門」「教職コラボレーション部門」「理数系教員養成事業部門」の4つの部門を擁し、教員養成教育の新たな姿を築こうとしています。

教師教育開発部門は、全学教職コア・カリキュラムの開発と研究、教育実習の企画・運営・研究、教育学部附属学校園との連携協力事業など教師教育開発の中核的役割を果たす部門です。

教職支援部門は「教職相談室」を開設し、教職支援・教職相談の企画・運営を担います。教職相談室では、教員採用試験情報の提供、論作文の添削、模擬面接などの教職支援

活動を行っています。年間延べ3,000人近い学生が利用しており、教育学部以外の学生も利用しています。また、卒業後も、学級経営や初任者研修、学校内での人間関係などの相談に対応しています。

教職コラボレーション部門は、岡山県教育委員会等との連携協力事業の実施、学生のボランティア活動やインターンシップ事業の企画・実施、現職教員研修の企画・運営などを担います。また「スクールボランティアビューロー」を設置し、学校現場と連携した活動を支援します。

理数系教員養成事業部門は、理科に強い小学校・中学校（理科）の教員（小学校CST・中学校CST）を養成するために、学部から修士課程までの6年間を通じた特別プログラムを実施し、この事業の推進を担っています。

ひとりでも多くの学生が、優れた資質と実践力を持つ教師として巣立つことを願っています。  
【文責：加賀勝】

## 平成25年度必修化 全学教職実践演習 の試行に取り組んでいます

教育職員免許法改正に伴い、平成25年度から新たな必修科目として教職実践演習が本格的に実施されます。この科目は全学教職課程の最終段階に位置づけられ、教育実習を終えた4年生が受講することになります。恐れたり、不安に思うことはありません。この科目は、いくつかの魅力ある設計となっています。

1番目に科目名にもあるように、グループワークや模擬授業といった演習形式が中心となるため、授業内容によって少人数での活動や大人数での演習など、様々なサイズの演習を経験することができます。

2番目に文学部、法学部、経済学部、文系学部と理学部、環境理工学部、工学部、農学部の理系学部の学生と一緒に講義を受ける機会が用意され、総合大学ならではの利点を生かしたスタイルを予定しています。

教職生活を真近に控えた4年生にとって、教員を目指す学生同士で意見交換や考えの交流を行える機会は貴重と思われます。

3番目に教職担当の教員と教科担当の教員と一緒に授業を行う形式がとられているため、様々な学部の先生方が15回の講義の中で授業に関わり、指導を受けることができます。それぞれ専門領域の違う先生が自らの知見に基づき、様々な視点からアドバイスを受けるチャンスが得られることもこの授業の魅力の一つと言っても過言ではないでしょう。

4番目に、演習の内容を深めていくために、2時限続きの授業にしていることです。まさに教職課程の最終段階にふさわしい、じっくりと、ゆったりと、しかもしっかりと取り組むことができるように設計しています。

そして、5番目にこの15コマの授業の中で、教職に関する内容と教科に関する内容の両方を扱っている、まさに総合的な科目となっています。

現在、来年度の本格実施に向けて、全学教職実践演習の試行として演習型講義を

行っています。そこでは、各学部の参加を希望した3、4、大学院生の約25名の学生が意欲的に取り組んでいます。これまでに第1回目10/2(火) I-II限「学習指導力に係る省察I」、第2回目10/23(火) I-II限「学習指導力に係る省察II」、第3回目11/6(火) I-II限「模擬授業演習I」、第4回目11/13(火) I-II限「模擬授業演習II」までが終了しています。参加学生の感想を見ると、「学校現場に出るまでに、確認できてよかった。」「違う教科の人の考え方を聞いて、「目からウロコ」だった。」など、好評のようです。

今後については、第5回目12/4(火) I-II限「現代的教育課題に係る省察I」、第6回目12/11(火) I-II限「現代的教育課題に係る省察II」、第7回目12/18(火) I限「まとめ」の予定で、いずれも一般教養棟4F A-43講義室で実施しています。(見学可。申込不要です。)  
【文責：櫻田健志】



### 学生と現職教員が集うCST養成講座

CST養成プログラムは、この10月より2年目(試行期間を含めて3年目)に入りました。現在のところ、学生と現職教員合わせて約50名が、本養成プログラムに参加しています。学生と現職教員がともに学ぶことのできるCST基幹講座(土曜講座)、学生が教師としての指導力を高めるためのCST課題研究、現職教員が理科教員を実践・推進していくための力量を高めることを目的とする理科教育探究講座や観察・実験力向上講座など、様々な講座を継続的に実施しています。学生は土曜日と自分の授業の合間をぬって、現職教員は通常業務のない土曜日の午前・午後を通しての受講となっていますので負担はありますが、自然や科学が好き、理科教育を通して子どもたちを育てたい、先生方の理科の授業をサポートしたいといった思いで熱心に参加されています。10月には、2回の土曜講座と1回の現職教員用の講座が開講されました。10月20日

の大学院自然科学研究科(工)塚本真也先生による講座「創造性と科学教育」では、創造性の概念やその訓練の方法について、自らが創造的である必要性を痛感させられる講義や演習を通して楽しく学ぶことができました。10月27日の岡山大学教師教育開発センター山崎光洋による講座「授業設計の基本的な考え方」では、理科の授業づくりに関する基本的な考え方について説明を受け、演習を通して授業作りの難しさと面白さを体験しました。10月27日の土曜講座は日程の都合で現職教員のための講座と同日開催だったため学生を対象としていましたが、学生が学ぶ様子の一部を現職教員が自分たちの講座の合間をみて参観されました。このような講座を自分たちも若いときに受ける機会があればよかったという感想をもった現職教員もおられ、学生と現職教員がともに学ぶ機会を大切にしていける必要があると感じました。【文責：山崎光洋】

### 「合同連携協力会議」開催

岡山県・市教育委員会と岡山大学との連携協定に基づき、平成24年11月2日に「合同連携協力会議」が開催され、主な協議内容は次の通りでした。

・本年度の新規事業として、初任者研修を3年間で実施する「教員研修モデルカリキュラム開発プログラム」の作成に取り組むこと、また昨年度に引き続き「教師への道」インターンシップ事業を重点事業とすること等が報告・了承されました。

・来年度から実施される教職実践演習に伴うインターンシップ事業やボランティア活動についての学校現場の要請やニーズ等に広く応え、より円滑に推進できるような体制づくりを全県的な視野から検討していくことが確認されました。

・理数系教員(CST)養成拠点構築事業における認定者については、その資格が生かされるような仕組みを県・市教育委員会で検討していくとのことでした。

・いじめ・不登校等喫緊の教育課題に対し、引き続き3者が連携・協働し、その具体的な方策を今後早急に協議し、その改善に努めていくことが確認されました。なお、詳細は教師教育開発センターのHPをご覧ください。【文責：山根文男】



### 第3回教師力養成講座 小・外国語活動を体感



第3回目は、社会・言語教育学系教授の高塚成信先生に小学校における外国語活動の意義を、岡山市立鹿田小学校の柏野恵理子先生に実践例についてお話いただきました。参加者全員で小学生になりきり、元気に活動する場面を再現しました。注意深く聴く活動と実際に発話する活動を繰り返し、無理のない反復練習で誰もが打ち解けます。失敗を恐れず心を開いて伝えようとすることで非言語コミュニケーションの大切さにも気づきます。単元計画表に込められた柏野先生の願いを読み解きながら小学校での外国語活動はどうあるべきかを協議しました。【文責：松原泰通】

### 第4回教師力養成講座 学級経営の大切さ熱弁



第4回目は、学校教育学系教授の渡邊満先生に学級づくりの意義を、岡山市立岡輝中学校の安楽栄太郎先生にその取組事例をお話いただきました。安楽先生の細部にまでこだわった学級通信には子どもたちとの秘話が詰まっています。ときにはクラスの枠組みを超え、部活動などを通してその先生の持ち味を活かし子どもに働きかけます。よりよい学級づくりに向かって足並みをそろえ、うまくいかないことがあっても一人で抱え込みません。現場には同僚性という教師同士のつながりがあります。本音で話せる先輩方が大勢いらっしゃいます! 【文責：松原泰通】

### H24・母校訪問実施



今年度も母校訪問が実施され、文系理系学生併せて200名を超える学生が参加しました。10月に文系、理系の学生を対象に実施された母校訪問事後指導では、「生徒が授業で寝ないようにするための教師の工夫を見聞きできた」、「お礼状を母校に送ったらお礼の連絡がかえってきて嬉しかった」、などたくさんの方が声を飛び交っていました。

なお、この両日に参加できなかった母校訪問を実施した学生は、12月12日(水)に母校訪問事後指導の時間を設定していますので教師教育開発センター事務室まで連絡の上、参加してください。【文責：三島知剛】

### 教員採用試験の



### その言『試験の内容と傾向をつかもう』

教員採用試験は、1次と2次に分かれています。そして、ほとんどの県・市において1次で筆記試験が課されます。しかし、その他は県・市によって異なります。そこで、まず、あなたが受験しようと思っている県・市では、これまで、1次と2次で何が課されてきたかを調べましょう。そして、それぞれにどのような傾向の問題が出されているのかを調べましょう。

岡山県・市では、今年、1次で筆記試験・個人面接、2次で小論文・個人面接・集団面接(討論)・実技・模擬授業・口頭試問が課されました。県によっては集団面接のかわりにディベートが課されたり、グループで協力してポスターやビデオなどの制作が課されたりしました。また、岡山県・市の小論文は、ここ数年、文章を読んだりグラフを見たりして、そこから分かる

ことをもとにして自分の考えをまとめて表現するような問題が出されています。

教職相談室には、さまざまな県・市の過去の資料を用意しています。また、これまでに受験した先輩の受験体験記もたくさんあります。それらを見ることによって、試験の内容と傾向を大まかにつかむことができます。【文責：小川潔】